大河ドラマと世界遺産効果あり 世界遺産ビジターセンターオープン

萩

山口県萩市は、2015年NHK大河ドラマ「花燃ゆ」の舞台やロケ地として、「文と萩物語」花燃ゆ大河ドラマ館」が開館し多くの来館者が訪れた。さらに2015年7月に「明治日本の産業革命遺産　製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の世界文化遺産登録が決定。世界遺産目当ての観光客も急増した。今後も世界遺産や2017年山口デスティネーションキャンペーン開催で注目の萩の情報を紹介する。

世界遺産となった萩城下町

萩の花燃ゆ効果

「文と萩物語　花燃ゆ大河ドラマ館」が昨年11月11日、旧明倫小学校体育館（山口県萩市江向602）に開館。来場者は約31万人と多くの観光客が大河ドラマの舞台の萩に訪れた。同時に萩に訪れた観光客は、山口県の他の観光地や温泉地にも訪れ、山口県観光全体を押し上げた。

萩・世界遺産ビジターセンター学び舎（まなびーや）オープン

「文と萩物語　花燃ゆ大河ドラマ館」は1月10日に閉館。ドラマ館の設備を一部生かしながら、1月30日に萩・世界遺産ビジターセンター学び舎（まなびーや）としてオープンする。

「明治日本の産業革命遺産」は、8県11市にわたる。構成資産23資産の中でも近代化の原点といわれる萩の5資産の位置づけや、吉田松陰がわが国の工学教育に果たした役割、23資産全体を映像やパネル、アニメーションなどを使って紹介。

生徒・児童（小・中・高生）100円、生徒・児童団体80円。団体料金は20名以上で、学校行事（団体）での入館の場合は事前申請により減免される。

駐車場は萩・明倫センター駐車場　普通車（180台）／310円（1回）、大型車（10台）／1030円（1回）。旅行会社とのクーポン契約が行われるほか、添乗員は無料で入館できる。

萩・世界遺産ビジターセンター学び舎

シアタールーム

「スーパーはぎ号」が運行を延長

萩市では、大河ドラマ館や世界文化遺産関連の目玉事業として、大河ドラマ館が開館している1月10日まで運行予定だった、JR新山口駅と「文と萩物語　花燃ゆ大河ドラマ館」を結ぶ直行バス「スーパーはぎ号」を好評につき継続運行する。

萩沖の海幸セレクショングルメ「ふみ御膳」好評

萩市内の旅館や飲食店、仕出し料理店などでは、「花燃ゆ」の主人公の文をイメージして女性にゆかりのある旬の魚介を使ったプレミアムグルメ「ふみ御膳」と「ふみ弁当」を昨年12月31日まで販売。販売数も2万食を突破し成功した。

今後は、萩観光の要所となる「萩・明倫センター」へのアクセス手段となる。目の前には「文と萩物語　花燃ゆ大河ドラマ館」をリニューアルし1月30日に開館する「萩・世界遺産ビジターセンター学び舎」や、「萩循環まぁーるバス」のバス停がある。

「スーパーはぎ号」は、自動車専用道路を利用し、ノンストップで運行することから、所要時間が片道約60分と既存の「特急はぎ号」より約10分短縮。

大河ドラマ館や世界遺産目当ての観光客の利用が多かった。1日4往復、運賃は3月31日までは特別料金で、おとな1030円、こども520円。「萩・明倫センター」は、観光交流拠点として使用されることもあり、旧小学校のグランド部分も駐車場、バス停やタクシー乗り場として整備。萩循環まぁーるバスは、西回り「晋作くん」と東回り「松陰先生」の2ルートのバスが、約30分毎に運行。料金は100円（定額料金）。1歳未満児は無料。1歳以上6歳未満児は、同伴者1人につき3人まで無料。

萩の大河ドラマ館は来館者31万人突破

明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業 山口県萩編

世界遺産登録で受け入れ強化

「明治日本の産業革命遺産」は、製鉄、造船、石炭産業などの重工業が西洋の技術を取り入れて、日本が「ものづくり大国」となる基礎をつくった歴史を物語る世界遺産。

山口県・萩や九州など8県11市に立地する23の構成資産からなるシリアルノミネーションで、萩エリアには、産業技術導入の最初期の遺産群として5つの構成資産がある。

シリアルノミネーションとは、広い範囲に分散する複数の資産を同じ歴史―文化群のまとまりとして関連づけ、数珠つなぎにすることにより、全体で顕著な普遍的価値を有するものとして推薦することの意味。

萩市内には、萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、萩城下町、大板山たたら製鉄遺跡、松下村塾の5カ所がある。同世界遺産の中で、山口県内は、萩市のみで、最も古い産業革命遺産と関連地域となる。

とくに松下村塾は、従来から萩観光の中心となっているが昨年は「花燃ゆ」の舞台、世界文化遺産への登録など観光客が大幅に増加している。

「花燃ゆ」の物語の中心であり、大河ドラマ効果でバスガイドやボランティアガイドの重要な紹介ポイントとなっており、立ち止まる観光客も以前より多くなっている。以前にはあまり気にも止められていなかった建物が大河ドラマや世界遺産効果で一躍人気観光スポットになった。

松下村塾

萩反射炉

恵美須ヶ鼻造船所跡

大板山たたら製鉄遺跡

松下村塾（萩市椿東1537松陰神社敷地内）

萩（長州）藩の兵学者吉田松陰が主宰した私塾。久坂玄瑞、高杉晋作、伊藤博文らが学んだ。松下村塾は、吉田松陰が実家の杉家に謹慎していた1856年から門人への指導を開始し、1857年に現存する塾舎に移り1858年に閉鎖されるまでの約2年10ヶ月の間に約90人の門人に指導を行った。その教えを受け継いだ伊藤博文ら塾生の多くが、後の日本の近代化・産業化の過程で重要な役割を担った。

萩城下町（萩市大字堀内1など）

萩城下町は、幕末に産業化に取り組み、産業文化を形成していった当時の封建社会を表している。萩城の跡（城跡）、旧上級武家地、旧町人地の3つの区域によって構成されている。萩博物館も世界遺産エリアに含まれる。萩城跡指月公園では、往時の萩城天守閣の様子をVR（仮想現実）技術を使いCGで再現。スマートフォンやタブレット端末で見学できる。

同じ敷地内で、隣接する杉家旧宅（吉田松陰幽囚ノ旧宅）も世界遺産となっている。

萩反射炉（萩市椿東4897―7）

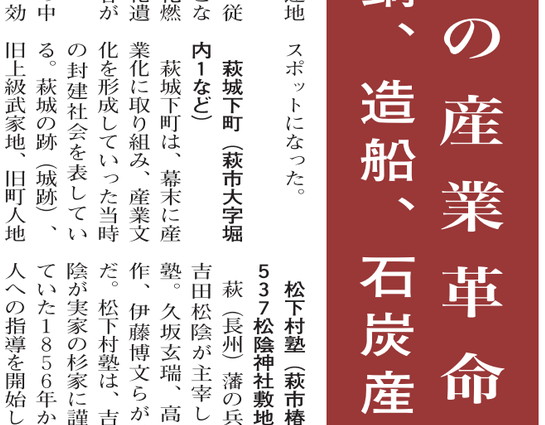
西洋式の鉄製大砲鋳造を目指した萩（長州）藩が、1856年に建設した高さ約10・5メートルの反射炉の遺跡。近年、試作された反射炉であったとの研究結果が発表され、丸、1丸）を現実）技術の導入で、西洋式帆船のCGがスマートフォンやタブレット端末上で再現され、往時の様子を見学できる。

恵美須ヶ鼻造船所跡（萩市椿東5159―14）

萩（長州）藩が木造の西洋式帆船を建造するために設けた造船所で、国内で最初期の洋式造船所のひとつ。2隻の西洋式帆船（1856年に丙辰丸、1860年に庚申丸）を建造。VR（仮想現実）技術の導入で、西洋式帆船のCGがスマートフォンやタブレット端末上で再現され、往時の様子を見学できる。

大板山たたら製鉄遺跡（萩市大字紫福257―5山地番）

日本の伝統的な製鉄方法であるたたら製鉄の遺跡。第3回目の操業期と恵美須ヶ鼻造船所で丙辰丸が建造された時期が重なっており、造船所での船釘・碇などの製作に、このたたらで生産した原料鉄が利用された。現地には絵図を用いた、往時のたたら製鉄の様子が動画で紹介されている。


往時の恵美須ヶ鼻造船所跡(VR)

「プレス」が萩反射炉付近を走ることから、車窓から見学しやすいように整備が行われた。

トワイライトエクスプレス 瑞風 2017年春 運行開始 JR西日本

JR西日本は、2017年春に豪華寝台列車と報道されることが多い「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」（トワイライトエクスプレス　みずかぜ）を運行開始する。

美しき「瑞穂の国」を風のように駆け抜ける列車として、また同社の人気の寝台列車「トワイライトエクスプレス」の伝統を受け継ぐということから、サブタイトルに「トワイライトエクスプレス」を冠した。瑞風とは、みずみずしい風のことであり、また吉兆をあらわすめでたい風という意味をあわせ持つ。展望スペースで、風を感じることができるという列車の特徴も表現した。

車両のデザインコンセプトは、洗練された上質さと心休まる懐かしさを感じられる「ノスタルジック・モダン」。車体色は、トワイライトエクスプレスの伝統を受け継ぎつつさらに上質さを演出した「瑞穂グリーン」の車体に金色のエンブレムとラインを配した。車体形状は、展望デッキと5形の先頭車には、丸目のヘッドライトや往年のボンネット型を彷彿とさせる運転室を配置し、懐かしさを演出。

インテリアは昭和初期デコ調をベースに、沿線の魅力をちりばめた車内で、大きな窓を流れる美しい景色を楽しめるようにした。また、開閉できる窓や展望デッキから沿線の風も感じることができる。

瑞風の外観（CG）

瑞風の展望デッキのイメージ

展望車内のイメージ

トワイライトエクスプレスの伝統を受け継ぐ ノスタルジック・モダンな豪華寝台列車

客室は中国5県の県産材を使ったドアや沿線のバスタブ付バスルームを備える。

食堂車は、オープンキッチンで、大きな窓を流れる車窓を眺められる。

ラウンジカーは、木をふんだんに使用した落ち着いた空間でバーカウンターや立ち寄り観光を1日1回実施。山陽コース2コース（1泊2日）、山陰コース2コース（1泊2日）、山陽・山陰コース（2泊3日）の計5コースを用意。

山陽コース（上り）は、下関駅発の大阪駅・京都駅着で、立ち寄り観光を、宮島、尾道で実施。車窓は、呉線の三原～忠海駅間で瀬戸内海の多島美や尾道水道、瀬戸内海（大畠瀬戸）、明石海峡が楽しめる。

山陰コース（下り）は、大阪駅・京都駅発の下関駅着で、立ち寄り観光を、城崎温泉、東萩で実施。車窓は余部鉄橋、山陰西部の日本海（折居海岸）、萩反射炉、山陰西部の日本海（深川湾）が楽しめる。

沿線の世界に誇れる多彩な食材を、日本料理、フレンチなどの西洋料理、どことなく懐かしい洋食といった、多様な料理形態で提供するため、日本料理は、ユネスコ無形文化遺産に登録された和食の普及に国内外で尽力していることでも知られる料亭「菊乃井」の村田吉弘氏や西洋料理は、レストラン「HAJIME」の米田肇氏、山陰、山陽地方で活躍する小山賢一氏（Le Jardin Gourmand オーナーシェフ）、上野純一氏（あなごめしうえの　4代目主人）、原博和氏（Le Restaurant Hara au nature オーナーシェフ）、上田幸治氏（Relle BONNE―MAMAN OBU オーナーシェフ）、小山 進（PATISSIER eSKOYAMA オーナーパティシエ）が料理メニューの一部を監修する。

車内クルーの制服デザインは、日本を代表するデザイナーの稲葉賀恵氏が監修する。制服は車両のデザインコンセプトである「ノスタルジック・モダン」に通ずる、洗練された上質さと心休まる懐かしさを感じさせるデザインとなる。

同社では車内クルー（1期生）の募集もスタートした。

募集する職種と主な業務内容は、接客クルーとキッチンクルー。

接客クルーは、旅行開始前後、および旅行中の接客、案内業務。客室、ラウンジカー、展望車、食堂車での食事や飲み物のサービス。客室、ラウンジカー、展望車、食堂車などの清掃業務、ベッドメイキング。車内への荷物などの積み込み・積み下ろし業務。

キッチンクルーは、車内の食堂車での食事の調理、車内へ食材などの積み込み・積み下ろし業務。

募集人数は接客クルー、キッチンクルーとも各10名程度。

募集期間は2016年2月19日まで。採用時期は2016年4月1日（予定）。詳細は「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」ホームページまたはジェイアール西日本フードサービスネットホームページを参照。

TWILIGHT EXPRESS 瑞風 スペシャルサイト
http://twilightexpress-mizukaze.jp/
ジェイアール西日本フードサービスネット HP
http://www.jwfsn.com/twilightexpress-mizukaze-crew/

問い合わせ先
公益社団法人萩市観光協会　山口県萩市椿3537-3　TEL:0838-25-1750
【ぶらり萩あるき】　http://www.hagishi.com/

萩市商工観光部観光課　山口県萩市江向510番地　TEL:0838-25-3139